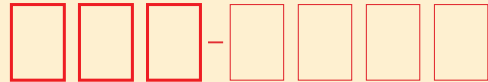




文月 齊 (ふみつき さい)  
 埼玉県出身。  
 人と街、自然と文化を題材に、  
 みちくさばかりの旅を続ける  
 エッセイスト。  
 函館、埼玉、大阪を拠点に  
 旅を満喫中。



善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

86

「急行に特急?」  
 車内で食べる思い出の旅の味」

前略、変わりはないか?  
 今年は秋が長かった印象の函館だけど、坂の街路樹にイルミネーションが灯り、港に大きなクリスマスツリーが現れると、さすがに「冬だなあ」って気がしてくるね。昼間の時間もずいぶん短くなり、町は日に日に年末の雰囲気深めていくよ。  
 この時期、全国のJRの普通列車と快速列車の自由席が自由に降り降りできる「青春18きっぷ」が発売されるので、観光地ではそれらしい旅人の姿を見かけるようになるんだ。それらしい、というのは、いわゆる「鉄ちゃん」と呼ばれる鉄道好きの旅人で、昔は僕も年に3回販売されるこの切符を使って、全国の知らない町を訪ね歩いたっけなあ。お金はなかったけど体力だけは有り余っていたので、一日でどこまでいけるかなんて挑戦したこともあったけど、ダイヤが乱れたりして思うように先に進めないこともあったっけ。そんなときには、駅構内の立ち食いそば屋で時間を潰していたけど、身体も温まって冬場はとくに重宝したものだよ。あの通りすがりに立ち寄るような雰囲気と、シンプルなお味付けがたまらなく好きだったなあ。  
 函館駅を含め、近郊の駅から駅そば屋がなくなって久しいけど、先日、函館の奥座敷、湯の川温泉街を散策していると、路面電車が走る通り沿いで気になるラーメン屋さんが目にとまった。駅票を模した白い看板には、駅名よろしく「ブルートレイン・すずらん号」と書かれ、前後の停車駅の欄には「トラピスト」、「五稜郭公園」と、旅人を意識した観光地の名前が入っているんだ。青いプレハブのような建物で、路面電車の窓から見たときには、鉄道車両に似せているのだからうくらいにしか思わなかったけど、柵の間から車輪のようなものが付いているのを確認できたんだ。  
 「あれ、本物?」もつとよく見える場所はないかとお店を回りこむと、線路の上に車両が乗せられているという、予想もしていなかった光景が目飛び込んできた。しかも台車には貨車の有蓋緩急車であることを示す「ワフ29500」の文字がはつきりと残っているじゃないか。こうなると、中がどうなっているのか気になってしょうがない。タラップのような階段を駆け上がり、ついつい駆け込み乗車してしまったよ。  
 店内は期待通りの佇まいだった。車内の板目や天井のアーチなどはそのまま活かし、パネルや計器類も外さずそのままの状態。鉄道車両を使ったラーメン店があるという噂を聞きつけた鉄道ファンたちが持ち込んだプレートや表示が壁に貼られ、店内は鉄道のプチミュージアムと化しているんだ。  
 大将曰く、最初もつと広い客車を購入しようと思っていたけど、予算の関係で緩急車を選択。鉄道マニアだったというわけではなく、低予算で店を始めたかったから払い下げの車両を使ったそうだけど、必要のないのに5万円プラスして車輪も一緒に購入したり、普通ラーメン、急行ラーメン、特急ラーメンと、麺の量によってメニュー名を付けているところを見ると、十分に鉄道ファンだったのだろうね。  
 え、味はどうなのか? 塩、味噌、醤油ともに、昔ながらの懐かしい味のするラーメンで、揚げた豚の背油が薬味に入っているんだ。そう、君の暮らす町の「かすうどん」に入っているあれさ。近頃流行りのギトギト系のラーメンは苦手だけど、大盛りの特急ラーメンもべろろりという美味しさだよ。加えて、食堂車のような、駅そばのような、列車の旅でも録音した音源を持参して、聞きながら食べるという。君も18きっぷを使って来るといい。大好きなチャーハンもあるからさ。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索